

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月7日

上場取引所 東大

上場会社名 日本新薬株式会社

コード番号 4516 URL <http://www.nippon-shinyaku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 前川 重信

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理・財務部長 (氏名) 櫻井 太郎

TEL 075-321-9114

四半期報告書提出予定日 平成21年8月10日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	15,782	△11.0	2,123	△47.1	2,248	△50.1	1,474	△49.6
21年3月期第1四半期	17,739	—	4,016	—	4,508	—	2,923	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	21.82	—
21年3月期第1四半期	43.22	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	103,176	78,539	76.0	1,160.19
21年3月期	98,286	76,344	77.5	1,127.49

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 78,389百万円 21年3月期 76,192百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
22年3月期	—				
22年3月期 (予想)		9.00	—	10.00	19.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 連結累計期間	30,000	△6.1	2,500	△46.2	2,700	△46.4	1,600	△47.6	23.68
通期	64,700	2.6	7,700	2.0	8,100	0.7	4,700	4.4	69.56

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 70,251,484株 21年3月期 70,251,484株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 2,685,705株 21年3月期 2,674,288株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 67,569,864株 21年3月期第1四半期 67,636,158株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。連結業績予想に関する事項については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期の当社グループを取り巻く環境は、医薬品業界においては医療費抑制のための諸施策が引き続き推進され、食品業界においては消費の低迷が長期化していることに加え、低価格志向の動きが激しく、それぞれ厳しい状況が続いております。

当第1四半期の業績は、前年同四半期に比し工業所有権等収益が減少し、売上高は157億8千2百万円（対前年同四半期比11.0%減収）、営業利益は21億2千3百万円（対前年同四半期比47.1%減益）、経常利益は22億4千8百万円（対前年同四半期比50.1%減益）、四半期純利益は14億7千4百万円（対前年同四半期比49.6%減益）となりました。

医薬品事業では、血管拡張性β₁遮断薬「セレクトール」が競合品の影響等により伸び悩みましたが、主力品である前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」が大きく伸長、アズレン含嗽液「アズノールうがい液」、粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN」、非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤「ハイペン」等が堅調に推移しました。また、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」原薬の売上も伸長いたしました。一方、前年同四半期にライセンス契約締結に伴う契約一時金を計上したため、その反動により工業所有権等収益は大きく減少しました。その結果、売上高は128億5千6百万円と対前年同四半期比10.5%の減収となりました。

機能食品事業では、加工食品業界、健康食品業界とも厳しい状況が続く中、健康食品素材、ニュートリション素材は堅調に推移しましたが、たん白製剤は円高と輸入原料相場の大幅な下落を販売価格に反映させたため大きく減少し、売上高は29億2千6百万円と対前年同四半期比13.3%の減収となりました。

[研究開発の状況]

国内では、吸入ステロイド剤「NS-126（一般名：デキサメタゾンシペシル酸エステル）」はアレルギー性鼻炎治療剤として承認申請中です。非麻薬性鎮痛剤「NS-315（一般名：トラマドール塩酸塩）」はがん性疼痛治療剤として承認申請中です。また、慢性非がん性疼痛への効能追加について、平成21年7月に第二相試験を開始しました。アルコール依存症治療剤「NS-11（一般名：アカンプロセート）」については、第三相試験を実施中です。日本イーライリリー株式会社から導入した「LY450190（一般名：タダラフィル）」については、同社が、肺動脈性肺高血圧症（PAH）治療剤として承認申請中です。また、前立腺肥大症治療剤としても第三相試験を実施中です。骨髄異形成症候群治療剤「NS-17（一般名：アザシチジン）」については、第二相試験を実施中です。肺高血圧症治療剤「NS-304」については、アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社と共同で第二相試験を準備中です。抗そう痒剤「NST-141」については、大鵬薬品工業株式会社と共同で平成21年5月に第一相試験を開始しました。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、米国では導出先のオプティマー社により第三相試験が実施されています。中国では導出先のリーズ・ファーマ社（香港）が第三相試験を準備中です。「NS-304」については導出先のアクテリオン ファーマシューティカルズ社（スイス）が欧州で平成21年7月に第二相試験を終了し、第三相試験を準備中です。サイトレックス社（米国）へ導出した慢性骨髄性白血病治療剤「NS-187」については第二相試験を準備中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は1,031億7千6百万円と前連結会計年度末に比べ48億9千万円の増加となりました。流動資産は、現金及び預金、たな卸資産が減少しましたが、有価証券、繰延税金資産、受取手形及び売掛金等が増加し、581億9千9百万円と前連結会計年度末に比べ6億2千1百万円の増加、固定資産は、有形固定資産が減少しましたが、投資その他の資産が増加し、449億7千7百万円と前連結会計年度末に比べ42億6千9百万円の増加となりました。

負債は、賞与引当金、その他の流動負債、繰延税金負債等が増加し、246億3千7百万円と前連結会計年度末に比べ26億9千5百万円の増加となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加により、785億3千9百万円と前連結会計年度末に比べ21億9千5百万円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から1.5ポイント減少し76.0%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ5億1百万円減少し、149億4千4百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、32億1千1百万円の収入となりました。主な内訳は、収入項目では税金等調整前四半期純利益22億4千8百万円、その他の引当金の増加11億9千5百万円、その他の流動負債の増加7億5千9百万円、減価償却費6億8千5百万円、支出項目では法人税等の支払額14億9千8百万円、売上債権の増加5億3千5百万円です。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、30億7千2百万円の支出となりました。主な内訳は、長期前払費用の取得による支出25億6千2百万円、有形固定資産の取得による支出3億8千1百万円です。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、5億7千8百万円の支出となりました。配当金の支払い等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は概ね当初の計画に沿って推移しており、連結業績予想につきましては、平成21年5月15日の決算公表時より変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,705	14,687
受取手形及び売掛金	28,167	27,632
有価証券	4,199	1,798
商品及び製品	5,810	6,050
半製品	663	789
仕掛品	560	381
原材料及び貯蔵品	3,587	3,609
繰延税金資産	2,154	1,617
その他	1,349	1,027
貸倒引当金	△0	△16
流動資産合計	58,199	57,578
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,865	9,021
土地	8,161	8,161
その他（純額）	3,109	3,222
有形固定資産合計	20,136	20,406
無形固定資産		
	330	307
投資その他の資産		
投資有価証券	13,768	11,532
繰延税金資産	48	164
投資不動産（純額）	1,313	1,330
長期前払費用	8,543	6,166
その他	873	838
貸倒引当金	△37	△39
投資その他の資産合計	24,510	19,993
固定資産合計	44,977	40,708
資産合計	103,176	98,286

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,775	4,432
1年内返済予定の長期借入金	59	70
未払金	3,022	3,267
未払法人税等	1,352	1,551
賞与引当金	3,693	2,463
返品調整引当金	31	48
その他	2,561	1,688
流動負債合計	15,496	13,522
固定負債		
長期借入金	169	182
繰延税金負債	674	0
退職給付引当金	8,062	8,009
その他	234	228
固定負債合計	9,141	8,420
負債合計	24,637	21,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,174	5,174
資本剰余金	4,444	4,444
利益剰余金	66,419	65,553
自己株式	△1,997	△1,985
株主資本合計	74,041	73,186
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,365	3,032
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	△19	△26
評価・換算差額等合計	4,347	3,006
少数株主持分	149	151
純資産合計	78,539	76,344
負債純資産合計	103,176	98,286

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	17,739	15,782
売上原価	7,378	7,253
売上総利益	10,360	8,528
返品調整引当金繰入額	32	—
返品調整引当金戻入額	—	17
差引売上総利益	10,328	8,545
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	1,421	1,474
賞与引当金繰入額	743	788
販売促進費	129	244
退職給付引当金繰入額	242	279
減価償却費	84	88
研究開発費	1,822	1,809
その他	1,867	1,739
販売費及び一般管理費合計	6,312	6,422
営業利益	4,016	2,123
営業外収益		
受取利息	36	27
受取配当金	136	109
受取賃貸料	75	77
為替差益	267	—
その他	80	49
営業外収益合計	595	264
営業外費用		
支払利息	5	3
寄付金	44	20
固定資産処分損	14	1
賃貸費用	23	26
為替差損	—	72
その他	15	15
営業外費用合計	103	139
経常利益	4,508	2,248
税金等調整前四半期純利益	4,508	2,248
法人税、住民税及び事業税	1,976	1,326
法人税等調整額	△394	△551
法人税等合計	1,582	774
少数株主利益又は少数株主損失(△)	2	△1
四半期純利益	2,923	1,474

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,508	2,248
減価償却費	629	685
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△121	53
その他の引当金の増減額 (△は減少)	1,234	1,195
受取利息及び受取配当金	△173	△137
支払利息	5	3
為替差損益 (△は益)	△318	69
固定資産処分損益 (△は益)	14	1
売上債権の増減額 (△は増加)	△608	△535
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△474	209
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△329	△321
仕入債務の増減額 (△は減少)	102	343
未払消費税等の増減額 (△は減少)	27	12
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△230	759
その他	4	△9
小計	4,268	4,577
利息及び配当金の受取額	171	136
利息の支払額	△5	△3
法人税等の支払額	△1,609	△1,498
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,825	3,211
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△40	△50
定期預金の払戻による収入	40	30
有価証券の取得による支出	—	△99
有価証券の償還による収入	—	183
投資有価証券の取得による支出	△32	△101
有形固定資産の取得による支出	△235	△381
有形固定資産の売却による収入	35	0
無形固定資産の取得による支出	—	△44
貸付けによる支出	—	△59
貸付金の回収による収入	—	10
長期前払費用の取得による支出	△910	△2,562
その他	△1	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,144	△3,072
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△297	△23
配当金の支払額	△527	△543
自己株式の取得による支出	△20	△11
その他	2	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△844	△578
現金及び現金同等物に係る換算差額	305	△61
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,143	△501
現金及び現金同等物の期首残高	15,153	15,446
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,297	14,944

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	14,362	3,376	17,739	—	17,739
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	14,362	3,376	17,739	—	17,739
営業利益	3,731	284	4,016	—	4,016

当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	12,856	2,926	15,782	—	15,782
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,856	2,926	15,782	—	15,782
営業利益	2,028	94	2,123	—	2,123

(注) 1. 事業区分は、販売方法及び製品の種類、性質、製造方法の類似性を考慮して区分しております。

2. 事業区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品名
医薬品事業	泌尿器官用薬剤、炎症・アレルギー用薬剤、血液がん用薬剤、循環器系及び代謝性薬剤、消化器官用薬剤
機能食品事業	調味・香辛料、健康食品素材、品質安定保存剤、たん白製剤、ニュートリション素材、除菌・洗浄剤、小麦製品

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）及び当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）

	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	2,528	247	2,776
II 連結売上高（百万円）	—	—	17,739
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	14.2	1.4	15.6

（注）1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

欧州・・・スイス、イタリア

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

主力製品売上高

平成21年8月7日
日本新薬株式会社

(単位:百万円)

製品名	薬効	H21年3月期	H22年3月期				
		第1四半期	第1四半期	前年同期 増減率	第2四半期 累計予想	対第2四半期 累計予想進捗率	通期 予想
エビプロスタット	前立腺肥大症治療剤	1,412	1,756	24.3%	3,200	54.9%	6,400
ハイベン	非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤	1,566	1,617	3.2%	2,900	55.8%	5,600
ガスロンN	粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤	1,078	1,155	7.1%	2,100	55.0%	4,200
セレクトール	血管拡張性 β_1 遮断薬	949	897	△ 5.4%	1,600	56.1%	3,100
ブラダロン	頻尿治療剤	855	857	0.3%	1,600	53.6%	3,000
エストラサイト	前立腺癌治療剤	823	805	△ 2.2%	1,600	50.4%	3,000
セファドール	抗めまい剤	760	761	0.2%	1,400	54.4%	2,800
キロサイド	代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤	736	707	△ 3.9%	1,200	58.9%	2,400
アズノールうがい液	アズレン含嗽液	496	592	19.2%	1,000	59.2%	2,400
バイナス	アレルギー性鼻炎治療剤	552	575	4.2%	1,000	57.6%	2,600
シアリス	勃起不全(ED)治療剤	—	—	—	600	—	2,200
工業所有権等収益		2,451	17	△ 99.3%	30	57.8%	2,300
プルリフロキサシン原薬		394	526	33.4%	600	87.7%	1,200
医薬品計		14,362	12,856	△ 10.5%	23,950	53.7%	52,700
機能食品計		3,376	2,926	△ 13.3%	6,050	48.4%	12,000
売上高		17,739	15,782	△ 11.0%	30,000	52.6%	64,700

製品開発状況

平成21年8月7日現在
日本新薬株式会社

<国内開発状況>

開発段階	開発記号 (一般名)	領域分類	適応	オリジン	開発
申請中	NS-126 (デキサメタゾンシロ酸エステル)	炎症・アレルギー系	アレルギー性鼻炎	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
申請中	NS-315 (トラマトール塩酸塩)	炎症・アレルギー系	がん性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュネタル社(独)	自社
申請中	LY450190 (タダラフィル)	循環代謝系	肺動脈性 肺高血圧症	導入： 日本イーライリリー	日本イーライリリー
開発段階	開発記号 (一般名)	領域分類	適応	オリジン	開発
P III	NS-11 (アカンプロセート)	その他	アルコール依存症	導入： メルクセローノ社(スイス)	自社
P III	LY450190 (タダラフィル)	泌尿器系	前立腺肥大症 に伴う排尿障害	導入： 日本イーライリリー	日本イーライリリー
P II	NS-126 (デキサメタゾンシロ酸エステル)	炎症・アレルギー系	気管支喘息	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
P II	NS-17 (アサシチジン)	血液がん	骨髄異形成症候群	導入： セルジーン社(米)	自社
P II	NS-315 (トラマトール塩酸塩)	炎症・アレルギー系	慢性非がん性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュネタル社(独)	自社
P II 準備中	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	共同： アクテリオン・ジヤパン
P I	NST-141	炎症・アレルギー系	アトピー性皮膚炎に伴う そう痒	自社	共同： 大鵬薬品工業

<海外開発状況>

開発段階	開発記号 (一般名)	領域分類	適応	オリジン	開発
発売準備中	NM441 (フルフロキサシ)	感染症	合成抗菌剤	自社	導出： 柳韓洋行社(韓)
P III					導出： オブティマー社(米)
P III 準備中					導出： リース・ファーマ社(香港)
P III 準備中	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	導出： アクテリオン社(スイス)
P II 準備中	NS-187	血液がん	慢性骨髄性白血病	自社	導出： サイトレックス社(米)

製品開発状況・補足資料

平成21年8月7日現在
日本新薬株式会社

申請中	
NS-126 (テキサメタゾソシペシル酸エステル)	1日1回投与の吸入ステロイド剤で、アレルギー性鼻炎について平成18年12月に承認申請。平成20年6月にユ・ヨン社（韓国）へ導出。
NS-315 (トラマトール塩酸塩)	グリュネンター社(独)から導入した非麻薬性の経口鎮痛剤で、世界100ヵ国以上で販売されている。軽度から中等度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛を適応症として平成20年7月に承認申請。
LY450190 (タダラフィル)	肺動脈性肺高血圧症の適応症については日本イーライリリーが昨年8月に国内で承認申請。
フェーズⅢ	
NS-11 (アカンプロセト)	平成15年メルクセローノ社(スイス)から導入したアルコール依存症治療剤で、既に欧米で発売済み。国内では平成21年3月にPⅢ試験を開始した。
LY450190 (タダラフィル)	前立腺肥大症に伴う排尿障害の適応症については日本イーライリリーが国内PⅢ試験実施中。
フェーズⅡ	
NS-126 (テキサメタゾソシペシル酸エステル)	気管支喘息についてPⅡa試験終了。
NS-17 (アザシジン)	平成18年セルジーン社(米国)から導入した骨髄異形成症候群(MDS)治療剤で、米国で第一選択薬として用いられている。平成20年12月にセルジーン社がEUで承認取得。全てのMDSサブタイプに効果が認められ、白血病(AML)への転化を遅らせる。作用機序は、血液形成細胞DNAのメチル化阻害。国内PⅡ試験実施中。平成20年11月にオーファン指定。
NS-304 (海外)	自社開発したプロドラッグ型経口剤で、活性代謝物が長時間血中に持続し、強力かつ選択的なPGI ₂ アゴニスト活性を示す。肺高血圧症治療剤として、欧州医薬品局よりオーファン指定済み。平成20年4月にアクテリオン社(スイス)への導出契約を締結。日本を除く全世界ではアクテリオン社が開発する。平成21年7月にPⅡ試験を終了し、PⅢ試験準備中。
NS-315 (トラマトール塩酸塩)	慢性非がん性疼痛について、平成21年7月にPⅡ試験を開始した。
フェーズⅡ準備中	
NS-304 (国内)	国内は、アクテリオン社との共同開発。PⅠ試験を終了し、PⅡ試験準備中。
NS-187	イマチニブ耐性変異体Bcr-ablチロシンキナーゼとLynチロシンキナーゼを強力に阻害、イマチニブ耐性にも奏効する慢性骨髄性白血病治療剤として開発。平成17年末にサイトレックス社(米国)へ導出。PⅡ試験準備中。
フェーズⅠ	
NST-141	自社開発した抗ヒスタミン作用ではない新規作用機序の外用剤で、既存の薬剤が奏効しない難治性のそう痒に対しても効果が期待できる。アトピー性皮膚炎に伴うそう痒を適応症として開発予定で、平成20年10月に大鵬薬品工業と基本契約を締結し、国内において共同開発・共同販売となる。平成21年5月にPⅠ試験を開始した。